

## 第10回神戸市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和4年12月2日（金）10時00分～11時20分

場 所：三宮国際ビル7階701会議室

委 員：出席者11名、欠席者1名

学識経験者	土井理事長、猪井 博登（欠席）
市民代表	川名 茂樹
交通事業者	吉田 育朗、濱田 隆弘、安藤 義治
各種団体	水田 節男、下谷 富雄、宮地 英樹
関係行政機関	田中 康嗣、八木下 徹、白井 真太郎

協議事項：■垂水区望海台地域コミュニティ交通「望海(のぞみ)」の本格運行の実施について  
→協議が整った

### 主な発言内容：

《垂水区望海台地域コミュニティ交通「望海(のぞみ)」の本格運行の実施について》

(土 井)：電話予約とWeb予約のシステムを併用しているが、利用状況はどうなっているのか。

(事務局)：現時点では全員Web予約を利用している。

(川 名)：乗合率を高めるために説明会や広報誌を配布しているが、乗合率1.5は目標としては非常に厳しい。

(土 井)：他の地域でもなかなか乗合が成立しないことが問題となっている。地域の皆様が一緒に乗り合うことで運賃が下がるといったサポートの仕方もあることを伝えていくことが第一歩と考える。

(川 名)：「望海(のぞみ)」を利用するには1時間前に予約する必要があるが、システム上で他の利用者の予約状況がわかりにくく、現状では乗合がほぼ不可能。予約状況の見える化等のシステム改修を要望している。

(八木下)：乗合を促進させるためには、既に予約がある便に乗りかということのを促していく必要があるが、予約状況が一覧で確認できないと難しいと思われる。

(土 井)：デマンド交通予約のアプリは運用上難しいところある。予約システムには改善の余地があるが、まずはスタートしてみて、使っているうちにどんどん改善案がでてくるので、それで改善していくのが望ましいやり方だと考える。

(川 名)：試験運行が1月末で終わり、本格運行開始予定の4月までの2ヶ月間空白期間となってしまうと、せっかく盛り上がった地域の勢いが消えてしまう。本格運行を前倒しにできないか。

(事務局)：地域公共交通会議で協議を整えたのちの標準処理期間や本格運行の準備期間を想定している。

(田 中)：申請の標準処理期間の標準は2カ月だが、この会議で協議が整った場合は1カ月に短縮することができる。

(下 谷)：試験運行を4月まで延期するほうが簡単なのではないか。

(吉 田)：運行事業者としてはどちらの場合でも対応できると考えている。

(土 井)：運行を切れ目なく続けることを目的に、本格運行の開始時期は関係者で検討していただくとし、本格運行の内容については、協議が整ったということによりか。

(一 同)：異議なし。